



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報  
第110号令和3年3月4日 発行  
米子工業高等専門学校図書館

## 図書館報「としょぶらり」について

図書館長 川邊 博

「としょぶらり」は学生の図書館の利用促進を目的として年2回の発行で号を重ねてまいりました。これまでは教室で学生に直接配布されてきましたが、この110号からは彦名通信と合併して、保護者のみなさまにお届けすることになりました。図書館の様子をお知らせすることで、彦名通信とは違った角度からの学校の様子をお伝えし、学生さんと本のお話を共有し図書館に関心を持っていただく機会になればと思っております。

図書館における近年の課題は図書の貸出冊数の減少であり、これまで読書に向けられていた時間がスマホに取られていることは、想像に難くはありません。書籍の文章は、その著者が最も適切な表現を選ぶ推敲を通してエネルギーを注ぎ込んだ結晶で、行間をも

読み込む作品といえるでしょう。今回の記事の中にも、映像の情報と活字の情報の比較がありますように、本の活字からの読み取りには、印象のインパクトとは違った、より深い繊細なものがあるようです。ニュアンスを含めていかに正確に情報や思いを伝え、読み取るか、これには、このように紡がれた活字の文章に多く触れ、人の心に届く文章を書いてみることで、多感な学生時代こそ、その読み取りの感度を上げておく好機です。定期試験では測れないこの能力が、「技術を活かす方向性」を幅広く豊かなものにする、これから見直される価値だと思います。そして、同じものをつくるだけでなく、他よりセンスの光るものを創り出していける時代に向けて、磨くべき能力につながります。

今回の記事では、図書や図書館活動で活躍する学生に語ってもらうことで高専生のセンスをお伝えできたらと思います。

## 「高専生が選ぶ 18 冊 2020」—国語科による読書推進事例の紹介—

教養教育科 渡邊 健

今年はコロナ禍により、1年生は入学式も出来ないまま6月末まで自宅待機を余儀なくされました。国語科では、ステイホームの期間が少しでも有意義なものになるよう、自分で選んだ本を読み「読書カード」を書くことを自習課題に加えました。その結果、質の良いブックレビューが多数集まったので、特に優れたものを18選り、美術同好会に「高専生が選ぶ18冊 2020」としてPOP作成を依頼しました。美術同好会の皆さんが素敵なPOPを作成してくれ、高専祭(10/29、30)の2日間、図書館交流スペース内にPOPと本を並べて展示しました。(写真右)

企画が好評だったので、高専祭後もPOPの展示期間が延長になりましたが、並べた本がしばしば「貸出中」になっていました。また、図書館長の話では、高知高専の先生がりべラルアーツ教育研究会で本校を訪れた際、このPOP展示を見て評価されていたそうです。学生による良書推薦の仕組みとして、今後も機会があればこうした企画を実施したいと考えています。



## 最優秀賞

### ブリッタ・テッケントラップ「かべのむこうになにがある？」を読んで

建築学科1年 阿形 遼子

私はこの本を目にした時、何故か不思議な気持ちになった。謎々みたいな言葉のタイトルに心が奪われたのだ。質問形式の表題はあまり見たことがないなあと感じたが、なぜか本当に壁の向こうに何があるのだろうかとしばらく考え込んでしまった。

自分である程度予想しながら、恐る恐る本を手にとって、ページをめくってみた。登場するのは動物のみなのだが、若い小動物のねずみと大型の年を重ねたねこ、くま、きつね、ライオン、そして未来に誘う青い鳥だった。同じ場所で生きるねずみがそれぞれ、ねこ、くま、きつね、ライオンに壁の外の世界について尋ねても、きちんとした答えはなかった。それでも決してねずみは諦めず、外の世界を知りたいと願う。青い鳥だけがねずみの希望を聞き入れて、実際に壁の外に連れて行き、壁の姿は自分たちが作った全くの虚像だと知るのだ。

この物語を一回読み終えた時、しばらく頭が整理できなかつた。いったい、何が起こったのだろうか。もう一回読み返しても、ライオンの行動が理解できなかつた。動物達に立ちはだかる壁はいつからなのか、どうしてなのか、誰も知らない。そして、大きな壁は何故赤色なのだろうか。登場する動物達の中で、こわがりのねこは壁が自分達を守ってくれる絶対的な存在と勘違いし、年配のくまは壁が作られた目的を当たり前として不思議だと思えない。次に、お調子者のきつねは思考することを嫌って、現状維持が一番と考える。特に、最後まで、幻の壁を取り払うことが出来なかつたライオンの姿が頭から離れなかつた。年配でかつ、人生が残り少ないことに悲観し、諦めの境地に達していたのだ。ストーリーの全てが謎だらけで、私の頭の中はメリーゴーランドのようにぐるぐる回転するのだった。

少し時間を置いて、めい想の中で私が整理でき

たことは、実は人間の世界にも同じことが言えるのではないかという置換法だった。小さくて、若いねずみは人間の若者、その他の年老いた動物達は経験だけが増えていき、現状から脱却できない人間の年配者達、そして鳥は新しい風を吹きこんでくれる本ではないか。前向きで、心が豊かな若者はいつも刺激を求め、年配者は今に満足して変わろうとしないという傾向が強い。ただ、単なるイメージで若者や年配者のことを言っているかもしれない、すべてが当てはまるとは言えない。その上で、私の現状はどうだろう。そして、今後どんな大人になっていくのだろうか。一抹の不安がよぎった。

私について言えば、この壁は一体何だろうか。早速、壁の一般的な意味について、国語辞典で調べてみた。この本での壁は㊦妨げ、㊧行き詰まりと書かれていた。わかりやすく言えば、㊦邪魔になること、㊧この先、どうしたらよいか、わからなくなることの意味らしい。自分の壁は何だろう。㊦勉強、㊧学校生活、㊨友達関係になるだろう。㊦については、先生方や寮の先輩方、そして家族から最大限のサポートがあり、㊨と㊧は自分らしさを全面的に打ち出して頑張っている。特に、学校生活は今年の六月より、親元を離れて寮生活を行っている。その壁を克服して、新しい自分に挑戦できている今がある。素直に嬉しいし、少しずつ前に進んでいきたい。

現在、大人になるという実感はまだないが、この本からわかったことはいつでも、どこでも素直な気持ちで、前向きに学ぼうとする姿が大切だということである。今後嬉しいことだけでなく、辛い経験もするかもしれない。自分が立ち直るきっかけやいち早く修正するためには、登場した鳥のような存在、私にとっては大切な本から教えてもらうこと、そして周りの家族や友達にしっかり支えてもらって、自分らしく素直に、そしてしなやかに強く生きていきたい。

## 優秀賞

### 東野圭吾「人魚の眠る家」を読んで

建築学科1年 藤江 桜良

私は「人魚の眠る家」という本を読みました。私が中学三年生の時の人権集会でこの本の映画化された作品を全校で見ました。脳死についての考えや登場人物それぞれの立場に立って考え、命の重さや大切さを思い知らされました。また、脳死についての考え方、人の生と死についての様々な考え方があることを知り、深く考えさせられる作品でした。だから、映画だけではなく、本でこの作品に触れたい、脳死について、命、生きていることについて考えたいと思い、この一冊を選びました。

この本はある日突然、瑞穂という女の子が水の事故で脳死の可能性が高いと医師に言われます。一度は脳死、臓器移植を受け入れようとした両親が瑞穂のかすかな反応に娘は生きていると感じ、生きている娘の心臓は止められないと思なおし、色々な形で娘の生にかかわり、向き合っていく話です。瑞穂は脳死状態に近いと言われてから、三年と数ヶ月生きました。瑞穂の生きる力にも感動しつつ、死とは人がどうなった時のことを言うのだろうかずっと考えているうち、読み終えていた感じです。瑞穂の家族や周りの人達の様々な考えを通して、私自身、共感したり、迷いを感じたりしました。そして、瑞穂の生きる姿からは生きることの大切さとどんなかたちでも瑞穂は生きている、生きていて欲しいという瑞穂を思う温かな家族の愛情が感じられました。瑞穂が三年数ヶ月、眠っているだけに見えるほど穏やかに、そして、現代医学では説明ができないほど驚異的な状態で過ごすことができたのは、その愛の賜物ではなかったのかとも思います。

私がこの本を読んで、最も印象に残った場面は母が瑞穂の胸に包丁を突き刺そうとし、「もし私がこの子の胸に包丁を刺し、それで心臓が止まったなら、娘の死を招いたのは私だと？」と警察に問いかけたところです。近い存在の家族でさえ、瑞穂はすでに死んでいると思っているのではと感じた母の必死の行動でした。母は今いる瑞穂が生きている人間であることをはっきりとさせたかったと思います。日本では、脳死と判断された

場合、その人は死んだとされるそうです。周りには瑞穂は死んでいると言う人も多いです。私も瑞穂の生に疑問を投げかける周囲の考え方になるほどそうかと思うこと、心揺らぐことも多々ありました。だが、私は瑞穂の母、薫子の考え方に賛成です。意識がなく、意志疎通もできない。生命維持装置の力でただ生かされている命、それを本当に生きていると言えるのかとの考え方もあるかもしれません。それでも、大切な娘の脳死を受け止められず、生命維持装置の力を借りたとしても、心臓が動き、身長が伸びたりする。そこに生を感じるのは当然のことです。やはりそれは大切なかけがえのない一つの命に違いないと思うからです。それを脳死判定することで、全て死としてしまうことが正しいという考え方には私はなりません。

そして、もう一つ、母が瑞穂の死を受け入れた時、読みながら、涙が出てきました。朝方、母の心に話しかけてきた瑞穂、「ママありがとう。今までありがとう。幸せだったよ。とても幸せだった。ありがとう。本当にありがとう。さよなら、ママ。元気でね。」自分の選択は正しいと思いながらも、何度か立ち止まり、答えを探していた母にとって、自分の選択を幸せだったと言ってもらえたこと、そして、別れも伝えてもらえたことで、素直に娘の死を受け止めることができたと思います。医学的な判断ではなく、娘自身の気持ちを聞くことが出来たことは大きかったと思います。

今、積極的な延命措置を希望するかどうかの選択の問題も聞きます。いつ、どんな状況で自分の死が訪れるかわかりません。そして家族の死、または大切な家族の最後の選択に自分が係わることになるかもしれません。立場が変われば、考え方も変わってきます。自分の死だったら、延命措置を望まないし、臓器を提供してもよいと考えます。でも、それが大切な人の生と死であれば、できるだけ長く生きていて欲しい。自分の選択で死を早めたくないと考えます。どの選択が良いとか、幸せとかはないのだと改めて感じました。どんなかたちであっても、その人に寄り添う心が大切だと思いました。そして、遠い先のこともかもしれませんが、どのような最期を迎えたことで自分の命の終わりとするのかを明確にしておくことが重要であると感じました。大切な人が大切な人の死と向き合い悩み続けないために。

# 校内読書感想文コンクール結果

校内読書感想文コンクール 応募作品数：151編

賞	学年・学科	氏名	作品名
最優秀賞	1A	阿形 遼子	ブリッタ・テッケントラップ「かべのむこうになにがある？」を読んで
優秀賞	1A	藤江 桜良	東野圭吾「人魚の眠る家」を読んで
佳作	1M	中川 桃子	上田早夕里「破滅の王」を読んで
佳作	1E	野田 袖月	太宰治『人間失格』を読んで
佳作	1D	内藤 佑弦	ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』を読んで
佳作	1C	門永 海星	「自分の壁」を読んで



## 読書感想文入賞者に読書についてたずねた

■読書感想文の入賞、おめでとうございます。はじめに、入賞作品について語ってまいります。阿形さんが読んだ、ブリッタ・テッケントラップ「かべのむこうになにがある？」はどんな本ですか。

①：いろいろな動物が出てきて、壁に対する考え方が違い、それでも困難を乗り越え、それぞれが壁を越えていきます。最後にライオンだけが恐怖心で取り残されてしまうが、みんなの助言があって乗り越えられるという話です。30ページくらいの絵本ですが、何百ページもある小説よりも作者の考えが端的にまとめられてギュッと詰まっていました。文章は少ないけど、絵から伝わってくるものがあります。

■「壁の向こう」というタイトルは確かに好奇心を掻き立てられます。読み始めるとき、この話(本)の何に惹かれましたか。

①：タイトルそのまま壁の向こうを知りたくて読んでみました。最終的にどういう答えが出るのかなと。絵

本は結構読みます。小説も読みますが。絵本は小さい子も読むけど、大きくなってから読んでも違った捉え方ができるのがいいです。絵があると想像しやすく、見ていて楽しいのも魅力です。

■小さい頃の絵本の読書体験を今も活かして読書を楽しんでいるわけですね。ところで、藤江さんはどんな本をよく読みますか。

①：絵本も好きです。私は感動したくて本を読みます。

■藤江さんは、東野圭吾「人魚の眠る家」での感想文でした。命をテーマにした話ですが、タイトルからの印象はどうでしたか。

①：最初は恋愛物語かと思いました。最初に中学校のとき映画で観たのですが、自分たちより先に観たクラスの人が「怖かったけど、めっちゃ感動した」と言っていました。

■映画やテレビ番組など、原作の読書によって、印象や作品の見方は変化しますか。

⑥：本の方が感情の変化とかを微妙に味わうことができるので、同じ物語なのに、違う感情を読み取ることができたりして、映画で観たときよりはよくわかりました。映画だと、俳優の涙と一緒に泣いたりして俳優の印象や演技に流されてしまうところがある。しかし、原作をあらためて読むと、自分自身が素直に考えさせられたり、自然と涙が流れたりして映画以上にいろいろなことを考えられると思います。映画と原作はどっちがいいとかではなく、どちらもいいところはあります。



■映画での表現と小説での表現を立体的に味わうような感じですね。本を選ぶとき「この本を読みたい」となるきっかけは、どういう場合が多いでしょうか。

⑥：友達が勧めてくれた本。「この本はこういうのだよ」といわれて、いいなと思った本を読みます。また、表紙やタイトルを見ていいなと思ったもの、あらすじも参考にします。実話をもとにした小説を選ぶことが多いです。ドラマで見たものを本屋で探すことはありません。

④：本屋さんに行ってみんなの評価が高い本を読みます。そうすると、だいたい外すことはありません。好きな作家だったら、片っ端から読んでしまいます。

■相当に読書が好きなのですね。

⑥：中学校の時は割と、借りては返し、借りては返ししました。クラスの貸出ランキングでは上位でした。

④：私も全校で張りだされて「またおるわ」と言われていました。

■今回の本を読んでみてどうでしたか。受けた影響とか。

④：まわりの存在は大切だな、と。支えてもらったということですが、あらためて、こんな短い絵本の中で感じさせられました。

⑥：生きるということは愛によることだということと、お母さんが子供を思っている行動に「母の愛」を強く感じました。

■あなたにとって読書の魅力とは何でしょうか。

④：ジョセフ・マーフィーの名言で「読書の時間を大切にせよ。1冊の本との出会いがあなたの生き方を変えてくれることだってあるのだから」というのがあります。もし、生きることに疲れるときがあってそんなときに、どんな困難があってもどうにかして乗り越えていく人を描いた本に出会うとどうなるかと想像しま

す。自分は一人じゃない、みんながいるという気持ちになるのではないかと思います。本は、筆者が文章を通して読み手に伝えたいことが詰まっている魔法のようなものだと思います。本を読むことで、人としての感性を高め、自分が自分らしく生きていける第一歩につながるを感じます。

⑥：主人公の立場になって、自分も経験した気持ちになったり、時には周りの人の気持ちになったり、いろいろな立場になりながら、様々な感動がもらえます。これが自分の頑張る力になり、自分もこんな風な経験をしたいなと思えるところが魅力です。本は、自分とは違う経験をしてきた人の話や、自分とは違う考え方がたくさん書かれているので、知識が広がり多くのことを学べます。

■どうもありがとうございました。

(■聞き手：川邊)

■おすすめの本は

④：パラリンピック陸上選手の本。障がいがある自分を受け入れられなかった筆者が、周囲の支えによって「障害者」の壁を越えてパラリンピック銅メダルを獲得するという話。自分自身も中学時代に大けがをしたとき、先生や家族、友人の支えで乗り越えて陸上競技に復帰できたという体験があったので共感できました。

⑥：湊かなえさんの「告白」という本です。もともと映画化されていましたが、本を読んでから映画化されていたと知り、映画でも観ました。あと同じ作家の「贖罪」「豆の上で眠る」もいいです。終わり方がたまらなくて、湊かなえさんの本は全冊読みました。他に山田悠介さんの「スイッチを押すとき」もおススメです。

## 図書委員に「鬼滅の刃」についてたずねた

■「鬼滅の刃」は映画開封から間もなくニュースでも取り上げられ、空前の大ヒットです。ここでは、若者のみなさんの心を捉えた要素を考えてみたいと思います。映画は観ましたか。

—(学生図書委員5人中3人が)観ました。

—(2人は)漫画は見たけど。

■どうでしたか。

—まあ、面白いといえば面白い。また観たいというほどでもないですが。「千と千尋の神隠し」は何回も観たいと思ったし、何回も観ている。

■封切前から話題だったのですか。

—知ってはいたけど、そこまで楽しみではなかった。ハマる人はいると思う。周りはみんな観ている。

■ヒットの要因は。

—個性的なキャラと音楽。流行りに乗っかっている。  
—この間までは「進撃の巨人」だったのが、「鬼滅」になって、今度は「呪術廻戦」というふうに、流れの中の一つだと思う。「鬼滅」はコロナのタイミングもあるかもしれない。「呪術」の映画はまだだけど、今は、鬼滅よりみんなよく見ている。

—多分、歌が良い。

—公開のときはみんな観ていた。「泣いた」とか言って。ただ、泣く人は何でも泣くかも。私はドラえもんでも泣いた。

—小さい子供や若い世代のあまりの盛り上がり、親の世代にまで関心が広がったような。

■印象的なところ、キーワードは何ですか。(トトロなら昭和への郷愁とか)「大正時代」「鬼退治」「妹を助ける」とは聞いたことがあるけど…。

—「鬼退治」だけど、そんな言葉で表せるような簡単なものではない。ただ、どんどん人が死んでゆく。残酷性もあるのかな。死ぬ必要のない人が死んだりとか。

—時代背景は「大正時代」だけど古臭い感じがしない。絵がきれいで。

—漫画を見たけど、どうしてもというほどではなく、みんなが観ているから観に行ってみようという感じ。

—若者には、流行にはとりにあらず付いて行っておかなければいけないというものがある。話ができなくなる。ツイッターで回ってくるから。

—「コロナ」の話題でも、話題になっているなら追いついていかなければならない。時事ネタみたいなもの。

—芸能人の不倫でも、まあ、ある程度の関心はあるし、詳しく知りたかったから見ておこうという感じ。鬼滅も、実はそれほど観たいというほどではなかったが、関心があったところに友達に誘われて観に行った。

—事前にアニメの総集編があったから、それを見て

映画(つづきの無限列車編)を観ようと思った人もいると思う。またその続きが出て、積み重ねられていくような。

■関心を引く路線があったのでしょうか。あるいは、計画的に？

—たまたまではないか。日本では何が流行ってもおかしくないと思う。

—日本のカルチャーなのだと思う。

—映画の入場特典など、集客を上手くやったのも興行収入1位となった一因では。

—SNSパワー。もともと人気あったのにSNSが乗っかって流行った。SNSがなかったら千と千尋ほどのヒットではなかったのではないかなと思う。

—千と千尋は再上映されるだけでタグ付けされるほどだったから本当に凄い。映画館で観ようって。

—ジブリだからだと思う。ジブリの蓄積が強い。四十何年のファンがいるほどだから。

—確かにジブリの作品は昔を懐かしむ良さがある。

■千と千尋はやっぱりすごいということですね。では、千と千尋の大ヒット要因は。

—ハクさまが大好き。カッコいい。湯婆婆も好きだしキャラが全部好き。

—ちょっと見たら観たくなった。いかに多くの人の目にとまれるか、じゃないか。

—ストーリーが分かりやすい。鬼滅も分かりやすいけど。

—キャラクターが個性的。ビッグネームで評判があり、もうジブリなら見たくなる。(評判という点では、鬼滅はジブリほどではない。)

—誰でも見やすい。しかし鬼滅は怖かった。音が大きくて、初っ端から鬼の首が飛んで、それを幼稚園児が普通に見ているのが実は怖かった。

—ジブリ作品には、もしあの中の世界に行けたらな…というものがある。ジブリはジブリ独特の世界観があってみんなそれに惹かれているのだと思う。

■別々の作品全体を貫く一本筋の通った哲学があるのでですね。作り上げて積み重ねてきたものが評価されているようです。ジブリの価値を再発見しました。

(■聞き手：川邊)



ちなみに、マーケティングの専門家、鳥取環境大学  
経営学部の竹内由佳先生によると…



竹内由佳先生には、12月23日(水)のリベラルアーツ講演会で、「What is Marketing?! ～こんなところにも“売る”仕組み!～」という題目でご講演いただき、その中で「鬼滅」のヒット要因の話が出たので、コメントをお願いします。

「鬼滅の刃」のヒットについてですが、実は週刊少年ジャンプの中で掲載されていた原作自体はそこまで売れているわけではなかったようです。むしろ描写や画そのものを見ても、読む人を選ぶ漫画だと思われていたようです。ところが、それをアニメ化したufortableという会社は、クオリティの高いアニメーションを作ることでも知られており、『劇場版「空の境界」』や『Fate』シリーズなどのヒット作はあるのですが、全て原作ありきのものばかりです。逆にオリジナルで製作した作品は酷評されているという面もあるそうです。そこから考えると、原作があるものをアニメ化するのがうまい会社であると考えられます。

そこから推察すると、このufortableが作った「鬼滅の刃」のアニメが、「鬼滅の刃」というコンテンツそのものをうまく売り出すために機能したと考えることが可能になります。「鬼滅の刃」そのもののイメージなどを変えることなく、視聴者に伝えることができていたため、「よし今度は漫画を読んでみよう」みたいな、視聴者から漫画の読者へのスイッチを促すことができたのかなと思っています。

## ビブリオバトル鳥取県大会

### ビブリオバトル鳥取県大会に参加して

電気情報工学科1年 松本 颯人

ビブリオバトルの県大会は、高専内での校内予選とは全く雰囲気違ってました。予選ではスラスラと言葉が出て、話している時でも気持ちに余裕があった。しかし県大会ともなると、観客も校内予選の2か3倍ほどおり、立っている足もかすかに震えていた。僕の前の方の発表者が、観客をまき込み、まるでライブのような発表をしていたため、よけいにプレッシャーがかかっていた。発表中は、思っているような時間配分ができず時間が余ってしまったり、言葉が続かなかったりして、自分の中で最高のパフォーマンスができず、予選の時よりも調子が出なかったように思った。結果的には、決勝に出るための最後の一枠で決選投

票になり、そこで負けてしまったが今後にもつながる課題が見つかったと思った。一つは緊張にとっても弱い所。もう一つはプレッシャーを受けやすい所。この二つの課題は、様々な所で重要な物だと思ったので大会を通じて発見できたのは、大きいことだと思った。もう一つビブリオバトルに参加してみた分かったことがある。それは、本の魅力を再発見できたことだ。他の参加者の発表を聞き、そういう本があるのか、と感じたり、その本読んでみたい、と思ったり聞いて楽しかった。今後ビブリオバトルが広がり、色々な人が本を楽しんで読んでくれるといいなと思った。



## 【令和2年度購入図書】

No.	書名等	著者等
1	Excelでわかる機械学習超入門：AIのモデルとアルゴリズムがわかる	涌井良幸, 涌井貞美著
2	画像認識プログラミングレシビ：今すぐ試したい！機械学習・深層学習（ディープラーニング）	川島賢著
3	ITエンジニアのための強化学習理論入門：Pythonで学ぶアルゴリズムの動作原理	中井悦司著
4	機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書	山口達輝, 松田洋之著
5	ScratchでAIを学ぼう：ゲームプログラミングで強化学習を体験	伊藤真著
6	Scratchではじめる機械学習：作りながら楽しく学べるAIプログラミング	石原淳也, 倉本大資著；阿部和広監修
7	わけがわかる機械学習：現実の問題を解くために、しくみを理解する	中谷秀洋著
8	ゼロからつくるPython機械学習プログラミング入門	八谷大岳著
9	コンピュータシステムの理論と実装：モダンなコンピュータの作り方	NoamNisan, ShimonSchocken 著；斎藤康毅訳
10	ハッキング・ラボのつくりかた：仮想環境におけるハッカー体験学習	IPUSIRON 著
11	RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習	有賀友紀, 大橋俊介著
12	世界で関わるプログラミング力を鍛える本：コーディング面接189問とその解法	GayleLaakmannMcDowell 著；岡田佑一, 小林啓隆訳
13	人生を狂わす名著50	三宅香帆著；今日マチ子絵
14	世界を変えた本	マイケル・コリンズ神父[ほか]著；藤村奈緒美訳
15	古くてあたらしい仕事	島田潤一郎著
16	アレにもコレにも！モノのなまえ事典	杉村喜光文；大崎メグミ絵
17	よくわかる哲学・思想	納富信留, 檜垣立哉, 柏端達也編著
18	逆境を突破する技術：「折れない心」を科学的に習得する極意	児玉光雄著
19	「繊細さん」の本：「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる	武田友紀著
20	10代のための疲れた心がラクになる本：「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法	長沼睦雄著
21	Change：未来を変える、これからの働き方	谷尻誠著
22	よのなかルールブック：メシが食える大人になる！	高濱正伸監修；林ユミ絵
23	はい！こちら子ども記者相談室デス！	かめおか子ども新聞著；ヨシタケシンスケイラスト
24	逃げろ生きる生きるのびろ！	たかのてるこ文と写真
25	多分そいつ、今ごろバフェとか食ってるよ。	Jam マンガ・文
26	私は私のままで生きることにした	キム・スヒョン著；吉川南訳
27	お寺の掲示板	江田智昭著
28	子どもたちに語る日中二千年史	小島毅著
29	インスタ映えする戦国時代	スエヒロ著
30	東大教授がおしえるやばい日本史	和田ラヂヲイラスト；横山一マンガ；滝乃みわこ執筆
31	15歳のコーヒー屋さん：発達障害のほくができることからほくにしかできないことへ	岩野馨著
32	コーヒーはほくの杖：発達障害の少年が家族と見つけた大切なもの	岩野馨, 岩野開人, 岩野久美子著
33	旅が好きだ！：21人が見つけた新たな世界への扉	河出書房新社編；角田光代[ほか]著
34	秘境・絶景編	集英社
35	47都道府県の歴史と地理がわかる事典	伊藤賀一著
36	ワイルドサイドをほつき歩け：ハマータウンのおっさんたち	ブレイティみかこ著
37	限界の現代史：イスラームが破壊する欺瞞の世界秩序	内藤正典著
38	父が娘に語る美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい経済の話。	ヤニス・バルファキス著；関美和訳
39	コンビニ外国人	芹澤健介著
40	「私を怒らせる人」がいなくなる本	園田雅代著
41	移民クライシス：偽装留学生、奴隷労働の最前線	出井康博[著]
42	なぜ僕らは働くのか：君が幸せになるために考えてほしい大切なこと	池上彰監修
43	それでも家族を愛してる：自分らしい"家族"を見つけ出した19の物語	ポー・ブロンソン著；桐谷知未訳
44	「ふつう」ってなんだ？：LGBTについて知る本	薬師実芳, 中島潤監修
45	わたしが障害者じゃなくなる日：難病で動けなくてもふつうに生きられる世の中のつくりかた	海老原宏美著
46	生きる冒険地図	ブルアルハ著；細尾ちあき文と絵
47	使える脳の鍛え方：成功する学習の科学	ピーター・ブラウン, ヘンリー・ローディガー, マーク・マクダニエル著；依田卓巳訳
48	授業で使える中学校数学パズル・ゲーム大全	『数学教育』編集部編
49	高校生、とび出せ世界へ！：Multilingual Adventures：高校交換留学21カ国2,000人の体験から	遊行社
50	ムダにならない勉強法：精神科医が教える	権沢紫苑著
51	辺境メシ：ヤバそうだから食べてみた	高野秀行著
52	ニューヨークタイムズの数学：数と式にまつわる、110の物語	ジーナ・コラータ編；小川浩一[ほか]訳
53	チェーリングと超(メタ)パズル：解ける問題と解けない問題	田中一之著
54	不思議宇宙のトムキンス	ジョージ・ガモフ, ラッセル・スタナード著；青木薫訳
55	名問の森物理	浜島清利著；波動2・電磁気・原子・力学・熱・波動1
56	最強に面白い!! 相対性理論	ニュートンプレス
57	量子論の基礎：その本質のやさしい理解のために	清水明著
58	弱点克服大学生の初等力学	石川裕著
59	初めから学べると評判の大学基礎物理力学キャンパス・ゼミ：高校物理から大学物理へ！スムーズに実力UP!	馬場敬之著
60	OpenFOAMによる熱移動と流れの数値解析	オープンCAE学会編
61	熱力学入門	佐々真一著；兵頭俊夫編
62	初めから学べると評判の大学基礎物理電磁気学キャンパス・ゼミ：高校物理から大学物理へ！スムーズに実力UP!	馬場敬之著
63	アトキンス物理化学問題の解き方(学生版)(第10版/英語版)	東京化学同人
64	アトキンス物理化学要論問題の解き方(第6版/英語版)	東京化学同人
65	アトキンス物理化学(上)・(下)(第10版)	PeterAtkins, JuliedePaula 著；中野元裕[ほか]訳
66	アトキンス基礎物理化学：分子論的アプローチ(上)・(下)(第2版)	PAtkins, dePaula, RFriedman[著]；千原秀昭, 稲葉章訳
67	マクマリー有機化学概説問題の解き方(第7版)英語版	東京化学同人
68	宇宙	[佐藤勝彦監修]
69	ブラックホールってすごいやつ：国立天文台教授が教える	本間希樹著；吉田戦車イラスト
70	最強に面白い!! 地球46億年	ニュートンプレス
71	総集編 = Compilation	日本建築学会編
72	恐竜まみれ：発掘現場は今日も命がけ	小林快次著
73	チャンスは準備された心にも降り立つ	福岡伸一著
74	ざんねんないきもの事典：おもしろい! 進化のふしぎ	下岡文恵, 徳永明子, かむむらふゆみ絵
75	生き物の死にぞま	稲垣榮洋著
76	ネコもよう図鑑：色や柄がちがうのはニャンで?	浅羽宏著
77	Pythonによる医療データ分析入門	青木智広著；pandas+疑似レセプト編
78	私は、看取り士。：わがままな最期を支えます	柴田久美子著
79	バイオマテリアル：材料と生体の相互作用	田中順三, 角田方衛, 立石哲也編
80	医用電子工学	松尾正之[ほか]共著